

危機対応科学情報発信組織準備委員会（第24期・第8回）

議 事 録

1. 会議名 危機対応科学情報発信組織準備委員会（第24期・第8回）
2. 日 時 平成30年9月26日（水）15時00分～17時30分
3. 会 場 日本学術会議 6-A（1）会議室
4. 議 題
 - （1）第4回、第5回、第6回、第7回議事録(案)の確認
 - （2）親委員会のあり方についての議論
 - （3）今後の進め方
 - （4）その他

出席者（敬称略）：高橋、杉田、渡辺、町村、藤垣、萩原、今田、芳賀
スカイプ（敬称略）：三村

（1）第4回、第5回、第6回、第7回議事録(案)の確認

詳細メモ等を元に、これまでの勉強会での講演内容ならびに議論をレビューした。

（2）親委員会のあり方についての議論

メディアとの意見交換会や勉強会の可能性

メディアは忙しくて対応しにくいので、普段からの関係構築が大切

SMCの登録制、意見分布の方法は参考になる。活動がどれだけ開かれたものになるかが課題。

親委員会としては、核になる人、みんなが集まってくれる人に、他の組織などがつながる必要がある。

親委員会の責任で発信するか、広報チームから発信するか。発信専門チームが必要か。

防災学術連携からの発信については、幹事会で話して急に決まったため、発信方法については、今後の課題。

親委員会は、防災学術連携体と学術会議の間くらいの組織、会議体とする。

小さいチーム VS 学会連合

組織が大きくなると機動性が落ちることが懸念されるが、土木学会ではできている。
他の分野との調整が大変。

テーマごとに主となる学会とするか。

3部はグルーピングして、分野別に幹事会ができている。

学協会にとって、学術会議が何をやっているか分からないのは課題。

大きな学会と学術会議の間に、密接な関係が必要（機械、土木、建築 など参照）

大型資金 PJに対して 物理学会は、全体の意見を集合しているか。

危機対応委員会は、どう組織するか。

使えるものをどんどん使って、緩やかな連携をしていくのが理想的。

〔親組織の具体的な人選について、フリーディスカッション〕

政府との繋がりが必要であるが、かつ政府とは一線を引く必要がある。

委員の分野、候補について議論された。可能なら候補者にご講演いただき、勉強会を行う。

今後の予定として、

1月に幹事会報告、2月に発出？、4月～ 1年半 活動

何かが起きた時に対応するための、体制／連絡をどうするか。

緊急時と、平常時：どの程度の拘束があるか。

メール審議も活用できるか。

学術会議会長が立ち上げる委員会として、緊急時の委員会

判断は？ 緊急時に準ずる？

緊急XX委員会といったものを作る（体制を、立ち上げたところ）

プロトコルが必要。

平素に話し合うことは何か？ 緊急になりうる 富士山噴火 など。

意見分布、確率事象を、どう伝えるか？

定期的に発信が必要、提言とかではない。
記者会見／メディア勉強会ができるか？

過去の例のおさらい／検証が必要。

SMCから発信？

海外からの期待を定期的に フォーリンプレスセンターから？
国際的に発信する必要？

12月28日に企画されている緊急シンポジウム「アフリカ豚コレラ」についての事前紹介があり、家畜感染症に関する危機情報の発信の事例としての議論がされた。また、「アフリカ豚コレラ」と似た症状を出す全く別の感染症である「豚コレラ」が26年ぶりに日本の養豚場で発生し、野生動物のイノシシでの広がりが懸念される状況が紹介された。野生動物との関係も重要なので、情報共有についても議論された。こう言った内容も、提言に盛り込む。

（3）今後の進め方

あと3回、12月半ばまで委員会の日程調整を行う。
最後の2回は文章の作成を行う。